

審議会等議事概要

平成29年度 第2回滝川市いじめ問題対策連絡協議会 議事概要

日 時	平成30年1月26日（金）16：00～17：00
開催場所	滝川市役所 5階 庁議室
出席者	委 員：熊倉裕幸委員、土谷涉委員、舛井雄一委員、渡辺精郎委員、 峯村征秀委員、梅津俊一委員、米澤敬子委員 会 長：山崎教育長 事務局：田中部長、栗井指導参事、諏佐課長、寺嶋課長補佐、堤主査、高橋主事
議 事	<p>1 開 会 進行：諏佐課長</p> <p>2 教育長挨拶 山崎教育長</p> <p>3 議 題 進行：会長</p> <p>(1) 報 告</p> <p>①「平成29年度絆づくり成果交流会」について ・堤主査から報告 質疑応答等 特になし</p> <p>(2) 協 議</p> <p>①いじめ問題に関する児童生徒の実態把握に係る調査の概要と考察（第2回） ・堤主査から説明 質疑応答等 i 委員) ・いじめアンケートにおいて「今も嫌な思いをしている」と回答した中学2年生 が、中学1年生、中学3年生に比べて突出していることについて、何か要因が あるのかを伺う。</p> <p>事務局) ・学校が「今も嫌な思いをしている」と答えた生徒全員に聞き取りをしたとこ ろ、「バカにするような言葉をかけられた」「後ろから背中を叩かれた」等、 対人関係における幼さに起因するような中身であったという報告を受けてい る。</p> <p>・このことを受けて、ソーシャルスキルやコミュニケーションスキルを高める指 導の必要性を感じ、学校へも働きかけたところである。</p>

ii 事務局)

- ・調査結果について感じたことや提案、意見、質問等あれば伺いたい。

委員)

- ・絆づくり成果交流会に参加させていただいたが、素晴らしい活動をされていると感じた。
- ・「いじめに関する月別通報・相談件数及びいじめ認知件数」における今年度の件数について、正味なのか延べなのかを伺う。また、これらについては各学校も把握し対応しているのか。

事務局)

- ・今年度の通報相談については全て別家庭からのものであるため、正味の件数となっている。また、全て保護者が学校に申し出たものであり、各学校で組織的に対応している。

委員)

- ・調査の報告等、書面などで各家庭に周知されていると思うが、PTA の立場から保護者である会員に訴える機会がなかなかないのが現状である。PTA 会長は単年度で代わる学校が多いが、春の総会でそういった話ができるよう、会長会議の中でも引き継ぐ体制ができればと思っている。

委員)

- ・法務局では子どもが悩みを手紙で相談する「SOS ミニレター」の取り組みを毎年行っているが、今年度はいじめに関する悩み相談はなかった。

委員)

- ・アンケートにおいて「今も嫌な思いをしている」と答えた小学 3 年生の数値が他学年より高く、小学 1 年生時からの時系列でも他学年より高いように見受けられる。この学年の高い数値が、ある特定の小学校のみで偏っているのであればそこに問題があると考えられるし、全ての小学校でばらつきがないのであれば全体的な問題があると考えられるが、そのような分析はされているのか。

事務局)

- ・小学校 3 年生の高い数値については着目していたところである。教育委員会ではすべての学校の学年別の傾向を分析し、市内小中学校の校長会議及び教頭会議で実情を伝えながら改善策を講じるなどの取り組みを行っているところである。

委員)

- ・小学 3 年生は活発な学年であり、それゆえにちょっとしたトラブルが発生しやすい。

委員)

- ・子どもたちにとつていじめた、いじめられたということがないのは大変良いことだと思うが、その一方で、大人への成長過程でトラブルやいさかいが全くない状態というのが果たして良いのかという懸念もある。

委員)

- ・今の若者は小さい時から目立つ行動を控える傾向があると感じている。また、

真面目で素直な分、こうあるべきという価値観にとらわれがちであり、そこから外れると過度に目立ってしまう。先ほど、小学3年生は活発ゆえにちょっとしたトラブルが発生しやすいという話があったが、成長の過程で人とぶつかる経験や多様性を認める経験をすることで、社会に入っていった時に対応しやすい面はあるかと考える。

委員)

- いじめ抑止の根源は、例えば助け合いなどに見られるいわゆる人間性であると考える。現代は競争社会であり、人と人との優劣、それに起因する妬みなどの歪みからいじめが起こるのではないか。人間性を失わない教育を、親や教師や社会が気を配っていただけたらと思っている。

②その他

今後の会議の持ち方について事務局より意見集約。

4 連絡事項

特になし。

5 閉会

会議資料

会議次第